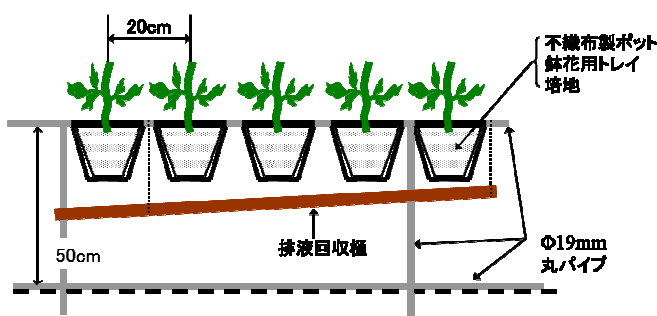


# 人に優しいトマトの低コスト養液栽培システムを開発しました

岐阜県におけるトマト生産の大部分は土耕栽培で行われています。土耕栽培は、収穫作業姿勢が悪い、土壤病害が発生しやすいなどの問題があり、収量も20t/10a程度（冬春作）で伸び悩んでいます。一方、既存の養液栽培は、導入コストが高く、土壤病害が拡大しやすい問題があります。そこで、当センターでは、これらの問題を解決した新しい養液栽培「独立ポット耕」を開発しました。



(栽培ベンチの構造)

トマトをベンチ上で1株ごとに不織布製ポットで栽培します。トマトの株が独立しており、**土壤病害の拡大を抑制**します。



不織布ポット

気化熱により培地温の上昇抑制(夏期)



ベンチ内ダクト

ベンチ内に暖房機ダクトを通し培地加温(冬期)

## トマトの生育促進

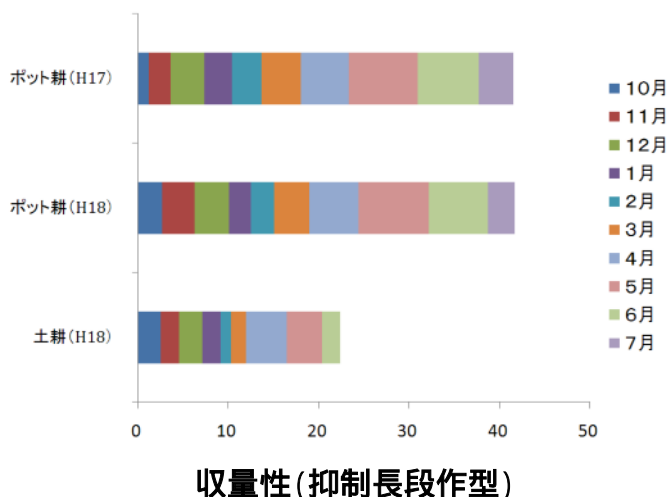


ポット耕

土耕

「ポット耕」は50cm高のベンチ栽培で**腰を屈めず収穫**することができます。

## 収穫時の作業姿勢



## 収量性(抑制長段作型)

## (研究成果)

- ・導入コストは、約240万円/10a（施工費除く）で低コストです。培地と不織布ポットは毎作更新し、約20万円/10aが必要です。
- ・1株あたりの培地量は1.2Lと少なく、少量多回数の給液で生育を制御します。
- ・当センターの栽培試験で、40t/10a以上の収量結果が得られており、普及段階では30t/10a以上の収量が期待できます。
- ・県内3社、県外1社の園芸資材を取り扱う企業が販売及び施工しています。